



Clostridioides difficile 感染症

森 伸 晃[†]

IRYO Vol. 75 No. 3 (270–273) 2021

【キーワード】 クロストリジオイデス・ディフィシル感染症, 抗菌薬関連腸炎, 再発,
Nucleic acid amplification test (NAAT) 検査, *Clostridioides difficile* 感染症

はじめに

クロストリジオイデス・ディフィシル (*Clostridioides difficile*) は, 偏性嫌気性のグラム陽性桿菌 (図1) である。ヒトや動物の腸管内や土壌, 環境中など広く自然界に生息しており, 芽胞を形成することにより環境表面でも数カ月にわたり生存することができる。1935年に新生児の糞便からはじめて分離され, 1970年代後半に抗菌薬関連腸炎の原因菌として報告されて以降, 抗菌薬関連腸炎の代表的な微生物として知られている。

Clstoridium 属から *Clostridioides* 属へ

これまで嫌気性菌の中で, 近縁種でないにもかかわらず属名に *Clostridium* がつく細菌が混在していた。ヒトに病原性をもたらす *Clostridium botulinum* や *Clostridium perfringens*, *Clostridium tetani* は Clostridial cluster II に分類されるが, *Clostridium difficile* は Clostridial cluster IV に分類される。これまで *Clostridium difficile* と呼ばれていたが, 表現型, 化学分類学, 系統発生学に基づく Peptostreptococcaceae 科に分類され¹⁾, 当初は

Peptoclostridium difficile という呼び名が提案されていたが, これまで臨床の現場などで用いられている *Clostridium difficile* 感染症 (*clostridium difficile infection*: CDI) や *C. difficile* などの呼称がすでに定着し広まっていることを考慮して, 新しい属として *Clostridioides* 属が提案され, *Clostridioides difficile* となった²⁾。

疫学

1) 世界の状況

2000年 はじめにカナダのケベック州で *Clostridioides difficile* 感染症 (CDI) の発症率や重症 CDI の増加が報告されるようになり, 1991年から2003年にかけて発症率が約4倍 (35.6人から156.3/10万人・人口) に増加し, 30日以内の CDI 関連の死亡率が約3倍に増加した³⁾。この増加に関与したのが BI/NAP 1 /027 株である。この株は, トキシン A とや トキシン B の抑制遺伝子である *tcdC* が欠損しているためこれらのトキシンが過剰産生していること, フルオロキノロン耐性であること, バイナリートキシンとよばれる毒素をもつことが特徴である。この BI/NAP 1 /027 に関しては2系統に分かれて拡散していることがわかっており, 1つの系統は

国立病院機構東京医療センター 総合内科・感染症内科 [†] 医師

著者連絡先: 森 伸晃 国立病院機構東京医療センター 総合内科・感染症内科 〒152-8902 東京都目黒区東が丘 2-5-1

e-mail: mori.nobuaki.jf@mail.hosp.go.jp

(2021年5月7日受付, 2021年6月16日受理)

Clostridioides Difficile Infection

Nobuaki Mori, NHO Tokyo Medical Center

(Received May 7, 2021, Accepted Jun. 16, 2021)

Key Words: *Clostridioides difficile* infection, antibiotic-associated colitis, recurrence, Nucleic acid amplification test